

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子中野中央保育園
施設所在地	東京都中野区中央1-13-8大橋セントラルビル2階
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然【栽培・植物】

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

近隣へのお散歩で見つける植物や、その種に興味を持っていたため、植物をテーマとした。

花や木等に触れる活動だけでなく、園で準備したモロヘイヤの栽培やじゃがいも掘り等も通じて、食べれる植物にも触れていく。

探した実や種を育てたらどうなるか？調理室から種をもらったら育つか？意図的に育つ物だけでなく、きのこやさつまいも等の袋栽培にも挑戦したい。

## 2. 活動スケジュール

### ①謎の種(?)を発見

【5月】近隣の公園で?の種を見つけた。これは何の種なのか興味を持ち園に持ち帰って調べてみる。

### ②モロヘイヤの種を育てる

【6月】モロヘイヤの種を購入し、6月3日モロヘイヤの種を植える。ペットボトルでマイ鉢を作り毎日水やりを行った。

### ③木の実を拾い集める

【9月～12月】

近隣の公園や川沿い散歩で落ち葉やどんぐり、木の実などを拾い集めた。園に持ち帰りどこの公園で何を拾ったのかを仕分け、子ども達が見やすい所に飾りいつでも手に取れるようにした。

### ④顕微鏡観察開始

【10月】

拾ってきた自然物を観察するために顕微鏡を購入する。散歩後には拾ってきた葉っぱを顕微鏡で観察し、目では見えなかった虫を見つけたり、細かい穴を発見した。10月中旬にはさつまいも掘り遠足に行った。

### ⑤ヒヤシンス・チューリップの栽培

【12月～1月】

お花を育ててみたいという子どもたちの声からヒヤシンスを購入し、ペットボトルのマイ鉢で水耕栽培を行う。春に向けて、チューリップの球根を購入し、冷蔵庫で植えるタイミングに向けて準備中

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

・ペットボトルの手作りマイ鉢・画用紙・顕微鏡・防災くぎってパネル(望遠鏡を見る際のパーティションとして設置)

マイ鉢、プランター、モロヘイヤの種、カイワレ大根の種、ヒヤシンスの球根

チューリップの球根

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

###### ①謎の種(?)を発見

→昨年からの栽培にチャレンジしていたが、うまくいかないことが多かった。

栽培には子どもたちも興味を示していたので、今年うまく興味を広げていければ、、、

###### ②モロヘイヤ・カイワレ大根の種を育てる

→子どもたちと相談し、種から植物をそだてよう。買い物で種を探しに行き、モロヘイヤとカイワレ大根を育てる。

###### ③木の実を拾い集める

→毎日戸外活動でいろんな公園に行く。公園によってどんぐりの大きさが違うんじゃないかということに気づく。

###### ④顕微鏡観察開始

→子どもたちがどんぐりや木の実を観察している姿をスタッフがみて、もっとしっかりと観察させてあげたいという思いが生まれ、顕微鏡を購入。実際に目で見た時の木の実や葉っぱ、それについている虫などを顕微鏡でみることで違う世界を知ることができた。

###### ⑤ヒヤシンス・チューリップの栽培

→一緒に過ごしている5歳児がもうすぐ卒園の時期を迎え、何かプレゼントを贈りたい。と考え、卒園式にむけてヒヤシンスとチューリップの球根を子どもたちと一緒に購入しに行った

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

たまたま見つけた種を園に持ち帰りプランターで育ててみた。毎日水やりを行うがなかなか芽が出てこず土を掘り返し種の中も開き梅干しの種だと分かった。そこから栽培に興味を持った。

モロヘイヤの種を買いマイ鉢で育ててみるが真夏という事もありうまく育たなかった。保育者と子どもたち同士で「暑すぎたからかな?」「お水あげすぎちゃったのかな?」とモロヘイヤがうまく育たなかった原因を話す様子が見られた。次は室内でも育てやすく食べれるものを栽培してみようとなり、カイワレ大根に挑戦してみた。「カイワレ大根にふわふわのベットを作りたい」という意見から綿と水を入れて栽培してみる。

毎日水やりを行い、日が当たるように気にかけていく姿が見られた。2週間程で芽がしっかり伸び給食のスープ・パスタに入れてもらい食することができた。「カイワレ大根味があまりしないけどシャキシャキしてて美味しかったよ」と感想を言っていた。一つ上の学年からも「ひまわり組さんが育てたカイワレ大根美味しかった」と声があり嬉しそうな様子が見られた。

栽培を始めたころは水あげを忘れてしまったりして保育者に声を掛けられて気が付く姿が多かったが、栽培を繰り返すにつれて朝登園すると水をあげたり、変えたりすることが習慣となり、忘れていた友達には声を掛けたり、お休み友達の植物のお世話をしあげたりと自分たちで自主的にお世話をする姿が見られるようになった。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

栽培に取り組む前は、種や球根がどう育っていくかあまり興味を示さなかったが公園で拾ってきた、謎の種(?)から始まり、育てたモロヘイヤが思うよう伸びずなぜだろうと疑問を持ち、子どもたちの声から食べられるものを育ててみたい！お花を育て誰かにプレゼントしてみたい！という気持ちを育むことが出来た。栽培を行う中でなぜ育たなかったのか子どもたちなりに考えている様子も見られ次の栽培に生かそうとする姿が見られた。今育てているヒヤシンスは子ども達から“誰かにプレゼントしたい”という気持ちから今現在も水やりや定期的に日に当てたりして育てている。年長児に向けて他の植物はヒヤシンスと同じように育つのか興味を持っているので春に向けてチューリップを育てるために冷蔵庫で植えるタイミングを待っている。

→今後はどうつなげていくか

拾ってきた葉っぱや木の実・どんぐりが、公園ごとに特徴が違う事を知り自分たちでいつでも振りかえられるよう手作り図鑑にまとめている。

今回購入した顕微鏡の出番をさらに増やし、目で見える世界と顕微鏡で見る世界の違いを再確認し子ども同士、保育者や保護者と振り返る機会を作っていきたい。